

前向きに挑戦する福井の企業を応援します

F-FACT

ファクト > Fukui advanced companies' try

【特集】 現場改善の挑戦を追う



Vol. 57

製造現場の働きやすさ向上へ、 スクール事業を活用



ナノメートルという超微細のオーダーでの「ナノめっき技術」を強みに、幅広い分野でめっき事業を展開する清川メッキ工業。同社は、ふくい産業支援センターが行う『福井ものづくり改善インストラクタースクール』に社員を継続的に派遣し現場改善につなげています。その経緯やスクールでの学び、現場へのフィードバックなどについて、専務取締役・清川卓二氏、第1製造部・石川達也氏、第4製造部・中村駿太氏にお話を伺いました。

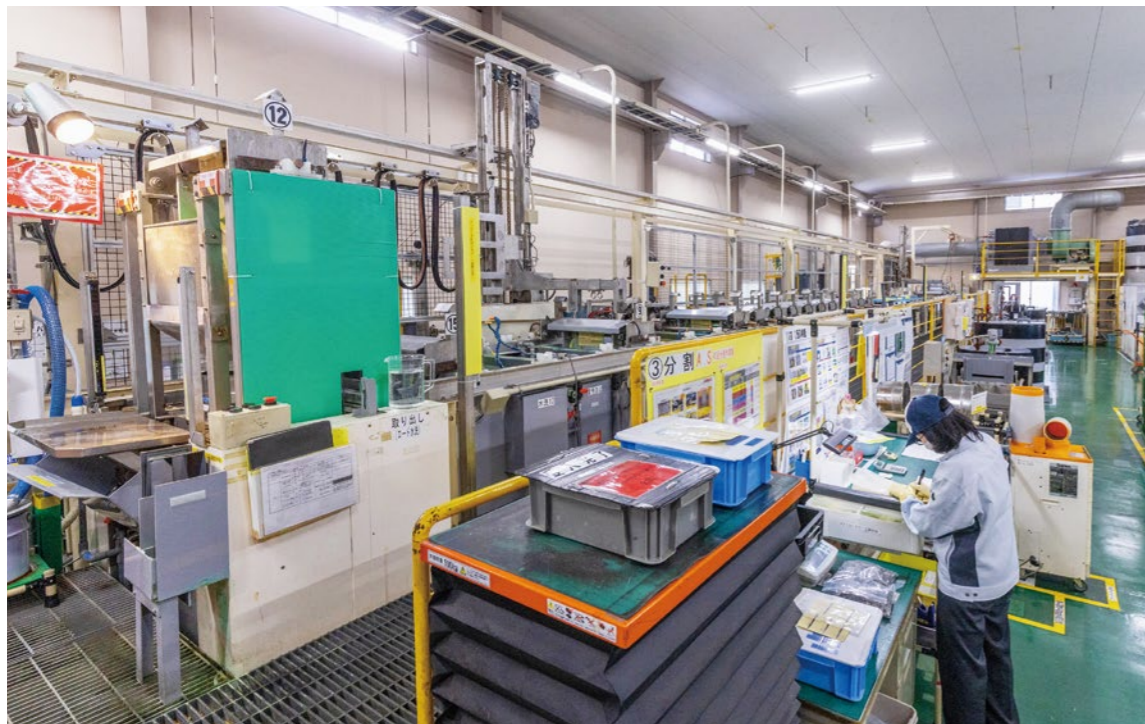
DATA

清川メッキ工業株式会社

所在地: 福井市和田中1-414 代表者: 清川肇氏
事業内容: 電子部品、マグネット、半導体ウエハをはじめとする
各種材料への電解めっきおよび無電解めっき加工
電話番号: 0776-23-2912 URL: <https://www.kiyokawa.co.jp/>



同社HPはコチラ!



中村氏が改善を行った、めっきライン。

がそれぞれ各部門の部課長の推薦で選ばれました。スクールは約3カ月、週1回の日程で進められ、グループワーク

を中心としたプログラムで展開します。ものづくりを掲げるだけに堅い内容かと思いきや、印象に残ったワークにつ

身近な題材も取り上げる ユニークな講座構成

同社は1963(昭和38)年創業で現在、電子、自動車、医療など計6部門でめっき事業を展開。企業理念に「自由なる創意の結果が、大いなる未来を拓く」を掲げ、創意工夫を旨とする精神でものづくりに取り組んでいます。社員が互いに創意工夫し、働きやすさの向上につながる取組みは「イビジョン活動」と命名され、各部門で小集団活動が盛んに行われています。社内にある47のチームから提案されるアイデアは年間3000〜4000件。優れた改善提案に対する「ありが



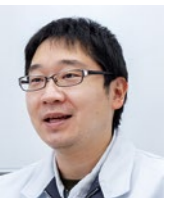
専務取締役
清川卓二氏



茅田洋氏



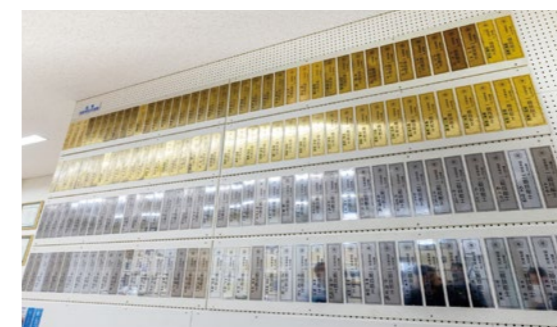
石川達也氏



中村駿太氏

とう賞」というアワードを月次で設け、年間を通して特に優れた事例には経営層が「ベストありがとう賞」も授与。表彰して終わりではなく、PDCAでさらなる現場改善につなげるのが「イビジョン活動」の特徴です。

ものづくりインストラクタースクール活用もその一環で、清川氏はそのねらいをこう話します。「社員が創意工夫を重ねたことに対し、正当な評価が与えられることは仕事の達成感につながります。社員各自が挑戦できる環境をつくること、聞える手法を整えること、取組みを承認する環境を設ける



国家資格「めっき技能士」も多数の社員が取得している。

とを突き止め、既存めっき槽の活用やキャリアのプログラム変更により、生産能力を従来の1・27倍に高めることに成功しました。

一方、電子部品を担当する石川氏は、めっきに必要な薬品の計量・溶解・搬送が手作業で行われていることに着目。パレート図で作業を細分化したところ、薬品補給の順番や、溶解済み薬品の移動にかかる時間や距離がボトルネックと

なることが分かりました。そこで、かくはん機を自作し薬品倉庫内に設置。倉庫内で溶解までさせ、ポンプでめっき槽に送るといった改善を行うことで、全体の工程を224分から164分に短縮できました。

両氏は「鳥の目、魚の目、虫の目」というキーワードを挙げ、スクールでの学びを「イビジョン活動」などを通じて



石川氏が自作したかくはん機。以前は手作業で混ぜていた。

スクールでの学びを 社内小集団活動に展開

では、中村・石川両氏がスクールでの学びをどのように社内へフィードバックしたかを紹介します。

車載関係を受け持つ中村氏は生産能力向上という現場改善に向け、ライン上を前後に動くキャリア(自動搬送機)の動作を中心に分析。ある処理の前処理にかかる時間が待機時間増につながっているこ

こと、これら全ては経営幹部の務めなのです」

スクールには各期に1人ずつを派遣する体制で、第5期生に中村氏(入社6年目)、第6期生に石川氏(同8年目)

社内を展開させていく考えを示します。「これまで現場の目先のことばかり見ていましたが、鳥の目で現場を俯瞰することで改善ポイントが見えました。鳥の目を身に付けることができたのが大きな収穫です」と実感を含めます。

茅田氏によると、めっき工程は手作業が多く、省人化が常に現場の課題とのこと。清川氏は1期生からの社員派遣を振り返り、「改善は一朝一夕で実現できるものではなく、継続的で地道な活動が欠かせません。受講企業としてスクールは未永く継続してほしい事業ですね」と要望しました。

現場改善の挑戦を追う



ふくい産業支援センターでは、企業の生産性を高めるため、「福井ものづくり改善インストラクタースクール」(以下、スクール)、「インストラクター派遣事業」(以下、派遣事業)、「改善提案具体化事業」(以下、具体化事業)を実施しています。ものづくりを行う企業にとって、生産効率を高めることは競争力を高める重要な要素であり、課題のひとつ。今回の特集では、スクール・派遣事業・具体化事業を活用し、現場改善に取り組む企業の皆様にお話を伺って参りました。

インストラクターインタビュー

～スクールの変遷と改善の視点～

(本稿は清水氏へのインタビューを元に再構成したものです)

スクールのこれまでと概要

2016年に開講したスクールは昨年で第7期を終えました。スクールは企業の現場リーダー候補の社員と企業OBを主な対象としており、企業OBは修了後、インストラクターとして県内企業の現場改善を支援しています。これまでに35社・70名の企業の社員がスクールを修了し、それぞれの職場で改善活動を行っています。また、企業OBも13名、スクールを修了しています。

スクールでは、現場改善に必要な知識や手法を座学・演習で学び、後半の現場改善実習では実際に企業の現場を分析し、改善策を提案・発表します。このように現場改善の知識や理論を実践的かつ体系的に学ぶことができるのが

第8期 インストラクタースクールカリキュラム(計画中)

	AM	PM
1日目	開講式・コミュニケーション	スクールガイダンス・ものづくり基礎概念
2日目	製造監督者の役割・リーダーシップ	5S・PC操作
3日目	VSM(モノと情報の流れ図)講義	演習(VSMを作成し全体を把握する)
4日目	IE(工程・連合作業)	IE(稼働・時間分析)、演習(工程・稼働分析)
5日目	標準作業と標準時間・作業改善	演習(ビデオを活用した工程・作業改善の進め方)
6日目	コストと生産性	QCストーリー把握・品質管理
7日目	問題発見の着眼点	演習(現場改善実習時の現場の見方・気づきのポイント)
8日目	現場実習に向けたトップヒアリングの進め方(課題抽出方法・課題解決案の立案方法)	現場改善実習の進め方・全体発表・個人発表資料の作り方・プレゼンの仕方
9日目	事前打合せ・改善実習現場見学	改善実習現場見学・テーマ設定
10日目	現場改善実習	チームディスカッション・発表作り
11日目	現場改善実習	チームディスカッション・発表作り
12日目	現場改善実習	チームディスカッション・発表作り
13日目	現場改善実習	チームディスカッション・発表作り
14日目	現場改善実習	チームディスカッション・発表作り
15日目	受講生のみによるチーム発表づくり	受講生のみによるチーム発表づくり
16日目	チーム発表・個人発表作り	チーム発表・個人発表作り
17日目	実習先でのチーム発表	実習先でのチーム発表
18日目	全体チーム発表	個人発表・修了式

※カリキュラムについては変更する場合がございますので、詳細はHPでご確認ください。



株式会社システムコネクト
代表取締役
ものづくり改善インストラクター
スクール 講師
清水昭彦氏

2019年、コンサルタントとして独立し、株式会社システムコネクトを設立。ITコーディネーター(経済産業省推薦)・中小企業支援アドバイザー・企業ミラサゴ専門家派遣登録専門家。福井スクール第4期を修了し、多数の製造業で現場改善・業務改善・システム化導入支援に従事している。

株式会社システムコネクト

所在地:福井市若杉2-1537 永井歯科医院2F
代表者:清水 昭彦氏
事業内容:ITコンサルティング、業務分析、システム導入・設計・開発、生産・品質管理、生産計画、原価管理、システム管理、ネットワーク構築、IoT、データベース開発 など
URL <https://system-connect.com/>



スクールの特長で、修了後には成果報告会を開催するなど、フォローアップ体制も確保しています。ここからは、スクールで講師も務める清水昭彦氏にお話を伺いました。

現場改善を行う上で、何からとりかかれば良いでしょうか。現場改善に限った話ではありませんが、まずは現在の姿(AS IS)とあるべき姿(TO BE)を明確にする必要があります。この2つのギャップを埋めるために課題を発見、共有し優先順位をつけて解決策を実行していくという一連の流れを繰り返して行うことが改善活動です。そして課題を発見する、つまり気づきを得るためには知識・経験・動機(やる気)の3つが必要です。社内

改善提案制度の運用をするといった動機づけも大切ですが、知識・経験が積みあがっていないと、先細りしていつてしまいます。スクール

のカリキュラムも、座学・演習で知識を、現場改善実習で経験をj得てもらえるように意識しています。また、改善を行う際には目的に合ったツールを選択するというjことも押さえておくたいです。ITやDXに関するjコンサルティングも行っています。I Tはあくまで手段の一つであり、システムを導入すれば業務が改善されるわけではありません。例えば作業のチェックリストの場合、記録のデータを再利用しないのであれば、PC・タブレットで入力するより手書きでチェックを入れて保管しておく方が早いといった場合もあります。

改善活動を継続することjが難しいという声も耳にします。前提として、先ほどお話ししたあるべき姿を全員が同じイメージで持っていないければいけません。そのためには、企業理念をしっかりと打ち出

す、他社をベンチマークにするなどといった方法が考えられます。そして、あるべき姿j会社としての方針を部門の目標、個人の目標という風に落として込んで管理していく。といったような仕組みづくりが必要だと考えています。また、改善活動をいざ始めていく際には、小さな成功体験を積み重ねるといことも重要で

す。特に初めのうちに失敗してしまうとやる気をそがれて頓挫してしまうというケースもありますので、小さな改善を積み重ねて大きな改善に繋げていく、という意識で取り組んでいただきたいですね。

来年度のスクールに向け、メッセージをお願いします。スクールではチームを組んで現場改善実習も行います。が、自社に戻って修了生1人で改善活動を実施していくというのはなかなか難しいです。やはり、社内と同じ目線で改善を進めていける人材が

スクールに関するお問い合わせ先

公益財団法人 ふくい産業支援センター
人材育成部(中小企業産業大学校)

〒918-8135 福井市下六条町16-15
TEL 0776-41-3775
FAX 0776-41-3729
URL https://www.fisc.jp/fiib/monodukuri_about.html



スクールで学んだ手法を活かし 部品生産数の増加を実現

ヨシダ工業株式会社

鯖江市で眼鏡部品、医療部品、楽器部品の製造を手掛けるヨシダ工業株式会社。同社はこれまで、3名をスクールに派遣し、修了生が中心となり改善活動を行っています。昨年8月から実施した改善活動の内容などのお話を専務取締役の吉田俊一氏、修了生である技術開発部部長の松本真生氏と飯田匠氏の3名に伺いました。

DATA

ヨシダ工業株式会社

所在地: 鯖江市有定町2丁目11-24

代表者: 吉田俊博氏

事業内容: 医療精密部品、楽器部品、眼鏡枠部品等の金属加工など

電話番号: 0778-51-4690

URL: <https://www.yoshida-i.co.jp/>

同社HPはコチラ!

外部での研修を通じ ノウハウ・知識の習得を

1948年、眼鏡部品の製造で創業し「とにかく一度、やってみるか」をモットーに同社は、その加工技術を楽器部品、医療部品へと広げてきました。スクールへの派遣を始めたのは今から約5年前のこと。当時、社外での研修や取引先に社員を派遣していたところ、良い感触を得ていたそう、吉田氏は「知識やノウハウの習得は、自社内の教育だけではどうしても限界があります。社外に出て学ぶ機会を増やし、社内にはフィードバックしてもらおうと考えたところ、スクールの存在を知り、派遣を開始しました」と振り返ります。

最初に松本氏をスクール(第3期)に派遣し、その後第6期のスクールに飯田氏を派遣。昨年のスクール(第7期)にも1名を派遣し、現場改善を進めていける人材の育

成を進めています。飯田氏はスクールでの学びを「スクール全体を通して、定量的に分析し成果を把握することの重要性を学ぶことができました。現場の状況も改善の成果も、数字で評価することで客観性を持たせることができるのだと納得しました」と話し、また松本氏は全17日間にわたるスクールへの派遣についてこのように話します。「スクールでは県内企業の方々と交流することができ、刺激がありました。スクールに参加する日に現場から一人抜けるのは大変ですが、派遣者の仕事を共有し、分担することで他のメンバーの成長にも繋がると

思います。普段そのような機会はなかなかありませんからね」

医療部品生産数の増加を 目標に改善活動を

同社は修了生の飯田氏を中心に、昨年8月～11月にか

なく効率よく動いているように見えたのですが、分析を重ねていくとプレス工程の方に付随作業が多いことが分かってきました」と振り返ります。そこで飯田氏は、プレス作業を詳細に分析。プレス工程はMC工程よりも、付随作業の数が3つ多いと判明しました。「プレス工程の付随作業の中でも、ピン選びとワーク確認(金型に問題がないかの確認)に特に時間がかかっていました。この2つの作業で、付随作業時間の半分以上の割合を占めていたのです」

(飯田氏)
分析の結果を踏まえ、金型の寿命管理ができていれば不良は出ないことを検証し、ワーク確認作業を省くことを決定。結果、部品1個当たり約40秒、作業時間を短縮することができました。生産数で見ると、1日あたり8個程度生産数を増やすことができた

とのこと。松本氏は「金型の寿命管理は以前から行っていた

改善活動を継続し 他部門への展開も

たのですが、現場での作業に反映されていなかったのです。今回の活動が後押しとなり、ワーク確認を省くことができました。小さな改善ではありますが、わずかな作業時間の短縮でも月間、年間と長い期間で見ると大きな生産数の増加になります」と説明します。

(※1) 人と機械で行う作業の内容を時系列で整理した図

今回の一連の改善活動をスクール修了生らによる現場改善成果報告会で発表も行い、同社は今回の改善活動を皮切りに、他の改善にも着手していく計画です。計画のひとつとして「NC工程の段取り替え時間の短縮」を挙げます。「段取り替えの回数は日によっても違いますし、パターンも様々です。作業者によってやり方も違い、なかなか難



同社が製造している部品の数々。

て改善活動を実施。以前から要望があった医療部品の生産数増加を目標に設定しました。医療部品の製造工程の中でも特に付随作業が多い、MC工程とプレス工程に改善効果が出やすいと予測を立て、分析を開始したそうです。飯田氏は「まずはビデオ分析を行い、マンマシンチャート(※1)を作成するところから始めました。一見作業者はムダ

しいですが、以前から課題となっていたのでしっかりと取り組んでいきたいですね」と飯田氏。また松本氏は「機械での作業は一度流すと自動で進んでいきますので、人による作業の多い眼鏡部品、楽器部品の部門に改善活動を広げていく必要があると考えています。現場では少しでも危ないと感じると確認作業を加えるなど、作業が増えていくことが多いので、人の作業を削減していくことも効果的かもしれません」と話し、最後に吉田氏は「スクールへの派遣を通じて、当社にない知識や手法を吸収してきた修了生だからこそできることがあると思います。修了生には現場の第一線で活動していつてもらいたいですね」と期待を込めます。



工場内の一部。加工用の機械が並ぶ。

5 S 活動を通じ、強い組織づくりを



坂井市でソフトウェアの開発・販売を行う株式会社シー・シー・ユー（CCU）。同社は昨年、改善提案具体化事業を活用し、5 S活動に取り組みました。活動のきっかけや経緯、その成果について、代表取締役の青山博喜氏と事務局担当のデザインマーケティング部、高村成二氏にお話を伺いました。

DATA

株式会社シー・シー・ユー

所在地: 坂井市丸岡町熊堂3-1-6-7
(ソフトパークふくい開発センター)
代表者: 青山博喜氏
事業内容: パッケージソフトの開発・販売、システムコンサルティングなど
電話番号: 0776-67-6112
URL: <https://www.ccu.co.jp/>



代表取締役 青山 博喜 氏

10年前に構想していた5 S活動を展開

1981年に青山氏が個人で創業し、1987年に設立した同社。現在は人事・給与・勤怠管理・財務会計・生産管理といった業務システムを主に開発・販売しています。青山氏が5 S活動の構想を描いたのは今から10年前。製造業での経験もある青山氏は「情報産業では目に見えるモノが動かず、情報が動くため、5 Sや受注から販売までのモノと情報の流れの管理といった部分に曖昧になってしまいう傾向にある」と感じていたそうです。なかなか着手できずにいたところ、ものづくり改善インストラクターの存在を知ったことが後押しとなり、5 S活動を開始しました。昨年7月から11月にかけて改善提案具体化事業を活用し、インストラクターとともに活動を展開。当初は情報の5 Sを目標としていました

が、まずはオフィス内のモノの5 Sから進めていくことに。青山氏が委員長となり、各部署の若手から中堅までの社員を中心に計9名で「5 S委員会」を組織し、2週間に1回のインストラクターによる指導、委員会メンバーでのミーティングを重ねながら、取組みを進めていきました。高村氏は「委員会でのミーティングではインストラクターが求めるあるべき姿を、どのように社内へ合った形で落とし込んでいくか、といった点も話し合いました」と振り返ります。

具体的には、整理・整頓・清掃を迷いなく行えるよう、備品を廃棄・購入する際の社内規程の整備、清掃のルール作り、月に1回の委員会メンバーによるパトロール実施などとして挙げます。青山氏は「もちろんこれまでも3つの課題に対し対応してはいるものの、まだまだ不完全是です。各部門で承認がとられた上で、モノが次工程に流れていく。そしてその記録が各部門でしっかりと行われていけば、モノと情報がきれいに流れていきます。目に見えないモノ（情報）が流れていく弊社でもこのような流れをしっかりと作っていきたくですね」と話し、最後に「オフィス内の5 Sもまだ完成には至っていないという認識です。最後までやり遂げるという想いを持って5 S



5S活動の取組みの一つ。書類トレイの整理・整頓を行った。



5S委員会での打ち合わせの様子。

当事者意識を持った組織へ情報の5 Sを進める

「通常業務との兼ね合いもありましたが、5 S活動に対し全員が当事者意識を持って取り組んでくれました。以前と比べて意見も出てくるようになりましたし、こういった意識の変化も収穫となりました」と青山氏。より自立的な組織を目指し、5 S委員会もメンバーを入れ替えながら進めていく予定です。

また、当初からの目標であった情報の5 Sにも着手していく計画で、過去の記録をいつまで、どのように管理していくか、現在の仕事の状況をどのように記録し、管理していくか。そして受注から売り上げまでの部門間の情報のやり取りをどのように管理していくか、という3つを課題

活動を継続し、より強い組織を目指していきたいですね」と締めくくります。

同社の主力製品、Fellowshipシリーズ。人事・給与・就業以外にも財務、生産管理なども。

修了生による成果報告会の開催概要と インストラクター派遣事業・改善提案具体化事業のご案内

ここまで、ものづくり改善インストラクタースクール事業・インストラクター派遣事業・改善提案具体化事業を活用して現場改善を進める企業の事例をご紹介しました。ここでは、スクール修了生による現場改善報告会とインストラクター派遣事業・具体化事業の詳細をご紹介します。ぜひ活用をご検討ください。

令和4年度現場改善成果報告会を開催しました！

スクールでは修了後も現場改善を継続できるよう、修了生による成果報告会を開催しています。今年度は11月11日(金)に開催され、修了生による成果発表だけでなくインストラクターによる講義も行われました。修了生同士の交流の場にもなっており、様々な刺激があったようです。



令和4年度成果報告会の様子

- 当日の開催内容**
- 講義「管理情報の良い流れづくり」(清水講師) 成果報告
 - ムダ取りによる生産性向上
 - 作業方法/レイアウト変更による作業時間短縮、作業性の向上
 - 品質改善とコミュニケーション改善
 - 医療部品の総合生産性向上
 - 工程変更・作業改善による生産能力向上
 - 講義「実践5S活動」(金子インストラクター)

参加者の声

- どの会社の発表も成果がはっきりとわかり、素晴らしい発表だと思った。来年の発表会に向けて準備したい。どの発表を聞いても、いかに周りを巻き込んで改善に取り組むかが成功のカギになることを強く感じた。
- スクールの求める現場改善が福井の企業に良い影響を与え、活性化に繋がっていることを改めて感じさせられました。一番印象に残り重要だと思ったのは「改善を成し遂げる為の強い信念」を持つことと、必要な知識を得て常にブラッシュアップしていくことです。
- 改善活動を継続する為には、強い意志とリーダーシップが必要だと改めて感じた。

改善を支援するインストラクターを派遣します！

「派遣事業」のご案内

募集対象・概要

インストラクター派遣により改善効果が期待できると判断する、福井県内に事業所を有する中小企業・小規模事業者に、福井ものづくり改善インストラクタースクールで養成したインストラクターを、原則として1名派遣します。

派遣回数 5回以内

活動期間 3ヵ月以内

派遣費用 1回3万円(税込)と交通費実費

生産現場の改善に意欲的に取り組む県内の中小企業・小規模事業者にもものづくり改善インストラクターを派遣し、福井ものづくり改善インストラクタースクールで習得した手法等を用いて、生産効率、品質向上等の生産現場で抱えている課題に対し、インストラクターが中心となり経営者・現場の皆様の協力を得ながら改善提案を策定します。

幹部・中堅社員とインストラクターが 一体となって現場改善を実践します！

「改善提案具体化事業」のご案内

募集対象・概要

福井県内に事業所を有する中小企業・小規模事業者、スクールで養成したインストラクターを1名派遣します。

派遣回数 原則10回

活動期間 5ヵ月程度

派遣費用 1回4万円(税込)と交通費実費

現場リーダー育成のための実践教育として、インストラクターを派遣します。5S活動や業務改善活動を担当者が主体的に実践し成果に繋がるようにサポートし、改善活動が社内に定着することを支援します。

お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター 人材育成部(福井県中小企業産業大学校)

〒918-8135 福井県福井市下六条町16-15 TEL:0776-41-3775 FAX:0776-41-3729
E-mail monodukuri@fisc.jp URL https://www.fisc.jp/fiib/monodukuri.html



CASE 4

現場改善、新規事業の両輪で 100年企業への基礎づくりを



同社HPはコチラ！

坂井市春江町でダンボールの加工・販売を行う株式会社三星。同社は昨年7月～9月にかけてインストラクター派遣事業を活用し、現場改善を開始しています。現場にどのような課題があり、どのように改善を進めているのか。経緯などの詳しいお話を代表取締役の灰谷佳洋氏に伺いました。



代表取締役社長 灰谷 佳洋氏

株式会社三星

所在地:坂井市春江町江留中第39号4番1

代表者:灰谷 佳洋氏

事業内容:紙器製造並びに販売、プラスチック製容器の加工並びに販売包装資材の販売、業務の請け負い

電話番号:0776-51-2121

URL https://www.i-mitsuboshi.jp/



同社が導入したデジタル印刷機。1枚からでもオーダーが可能。

ハード面とソフト面の両輪 に伴い派遣事業を活用

同社が派遣事業を利用したきっかけは、コロナ禍で行った設備投資でした。ダンボール加工を行う機械を入れ替えましたが、加えて社員教育や生産の仕組みの見直しといったソフト面の改革も必要だと考えたそう。まずは現場が抱える課題を明確にするため、派遣事業の利用に至りました。また同社は同時期に、週1回改善の手法やモノづくりの理論を学ぶ社内研修も開始しており、灰谷氏は「コロナ禍をきっかけに社内体制の変革や社員教育に力を入れていく」と。コロナ禍での逆風を推進力に変えていけるよう、取

組みを開始しました」と振り返ります。

具体化事業の利用で 現場の課題解決を目指す

「担当して下さった清水インストラクターは現場に寄り添って意見を集め、課題を指摘してくださいました」。主な課題として、受注から製造指示までの仕組みの見直しと組立エリアの確保といった点が挙げられたとのこと。「自分たちも何となく課題だと思っていたことが、清水さんに指摘していただき明確になりました。課題を皆で共有できた点も良かったですね」

創業100周年に向け 新規事業の展開も

同社は今後、改善提案具体化事業を利用し、製造指示までの仕組みづくりと組立エリアの確保に必要なレイアウト変更といった改善を進めていく予定。灰谷氏は「今回の改善活動では、私はあまり関与しないようにと考えています。指示を受けて改善するのはなく、自ら考えて改善を進めていける風土を作りたいからです」と話します。また、「ものづくりの原理原則を知らないというだけでも、自分の仕事を始めるに十分な準備は出来ていない」と話します。

「フルカラー印刷ですので、展示会等で使用するPOPやパネルも制作できます。ゆくゆくは自社製品の開発・販売も視野に入れ、新しい需要を作り出していきたいですね」と灰谷氏。「これまでのダンボール加工は生産性の向上を、新規事業は販路の拡大を目標に100年企業となるための基礎を作っていければ」と展望します。

仕事だけを基準に改善を考えてしまっています。社内研修を通じて原理原則を学び、広い視野で改善に取り組める人材を育てていきたいですね」とも話します。

株式会社グリーン企画

所在地：坂井市三国町北本町3-8-16（酒粕ノ國）
 代表者：立野 裕二氏
 事業内容：抹茶菓子の製造販売、茶葉販売、酒饅頭の製造販売、
 webサイト・デザイン制作など
 電話番号：0776-43-9205（酒粕ノ國）
 URL https://sakekuni.com/



同社HPはコチラ！



立野 美沙氏



酒粕を有効活用した酒饅頭で 三国の文化継承と観光に貢献

株式会社グリーン企画

ホームページ制作からコンサルティングまで事業を幅広く手掛ける株式会社グリーン企画。同社は「世界一の抹茶の濃さ」を目指す抹茶スイーツ専門店『抹茶庵』の運営も行っており、昨年、吉田酒造有限会社の酒粕を使った「史上最も酒臭い酒饅頭」として『酒粕ノ國』を開発。『抹茶庵』三国本店の海側に、酒饅頭専門店『酒粕ノ國』を開店しました。三国町の酒饅頭文化の再興を志した開発の経緯と今後の展望について、取締役の立野武裕氏（以下、立野氏）と執行役員である立野美沙氏（以下、美沙氏）に伺いました。

酒粕の消費を上げるため 最も酒臭い酒饅頭を開発

『酒粕ノ國』は、地産の酒米にこだわる永平寺町の吉田酒造の酒粕を用いた酒饅頭です。「史上最も酒臭い酒饅頭」を目指し、袋を開けた瞬間、日本酒の匂いが香り立ち、しっとりとした皮とあんこの風味が堪能できます。開発のきっかけは、立野氏がホームページを制作した永

平寺町の勝山酒店でのことでした。コンサルティングも行う立野氏は、勝山酒店から吉田酒造の酒蔵祭りに出てみないかと打診を受け、以前ニュース等で見た「酒粕の処理の大変さ」について思い出したそう。その時、同社で運営する『抹茶庵』で開発した「世界で一番抹茶の濃い」抹茶のフォンダンシヨコラと共通する課題を感じたといいます。「抹茶のフォンダンシヨコラ

は抹茶の絶対的な消費量を上げる方法として生まれたもの。三国町の酒饅頭で酒粕を活用し、酒粕自体の消費量を上げるとともに、三国を訪れる人のおもてなしにつなげられないかと考えました。

立野氏は美沙氏と共に「史上最も酒臭い酒饅頭」の開発に着手。スタッフと試行錯誤を繰り返して、昨年4月、吉田酒造の新酒酒蔵祭りで『酒粕ノ國』を販売します。日本酒

が強烈に香る酒饅頭は大好評で、2日間で1千個を完売。一般販売を求める声も多く、本格的な生産体制の確立を模索します。

独自の配合を生み出して 対象を絞り、需要を創造

そもそも酒饅頭は、三国町の伝統文化として受け継がれる郷土の銘菓。三国祭や結婚式で配られるなど地元の暮ら

しと深く結びついています。近年、高齢化やコロナ禍の影響で作り手が激減。昔は多くあった酒饅頭店が、今で

は片手で数えられるほどになっっているそうです。三国町出身の立野氏は、「他店の市場を奪うのではなく、『酒臭い酒饅頭』を求める人に対象を絞り、需要の創造をしたかった」と思いを語ります。

そんな『酒粕ノ國』の圧倒的な日本酒の香りは、独自の製造方法に秘密があります。「当社は通常の倍にあたる酒粕を手作業で濾し、生地に練り込みます。酒粕を濾すのは労力も時間も必要で、酒蔵祭りの時は夜遅くまでかかりました」と苦笑いする美沙氏。蒸しの際も、水の変わりに吉田酒造の『白龍 純米吟醸』を贅沢に使用。日本酒の香りと風味を封じ込め、絶妙な美味しさを醸しています。また、

パスつきを防ぎしっとり感を生み出す独自のレシピで、消費期限を延長し冷凍にも対応。令和4年度の福井県商工会連合会認定推奨品「福井のネクストブレイク商品」に選ばれました。

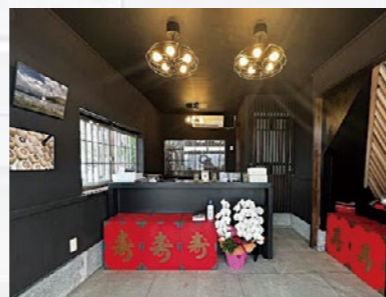
助成金で包あん機を導入 三国の文化を受け継いで

『酒粕ノ國』を三国観光の土産として定着させる実店舗化に向け、立野氏は「おもてなし産業魅力向上支援事業」を活用しました。助成金で包あん機を導入し、年間7万8千個の酒饅頭の製造、販売を実現。「年間1トンの酒粕の活用を目指せるようになり、社会、お客さま、酒蔵、当社の

『四方良し』となります」

と立野氏。昨年9月に、以前は酒饅頭店だったという『抹茶庵』三国本店の海側をリノベーションし、『酒粕ノ國』をオープンしました。

今後は『抹茶庵』の実績を基に、『酒粕のフォンダンシヨコラ』や



店頭には、かつて婚礼時に饅頭が詰められた朱塗りの箱が飾られて。

『酒粕のチーズケーキ』など、酒粕を使った新商品を開発。『抹茶庵』で展開する店舗やオンラインストアを通し、『酒粕ノ國』の販路を広げていく予定です。また、現在月間300個を卸す勝山酒店など、小売店やサービスエリアでの販売も計画。「1日の製造量を増やし、生産性向上と安定供給を図りたい」と展望します。

「三国では結婚式の時に屋根から酒饅頭をまく風習があり、近所で結婚式があると母と出かけて、みんなで笑顔で酒饅頭をキャッチした思い出があります。当社の『酒粕ノ國』も、観光土産をはじめ幸せな時やうれしい時などに購入してもらえたら」と笑顔がこぼれました。



製造時に高温スチームで加熱を行いアルコールが飛ぶので、妊娠中の方にも安心です。



「酒粕チーズケーキ」、
「酒粕フォンダンシヨコラ」
も開発しました。



事業再構築補助金が変わります！

【令和4年度 第2次補正予算】

事業の再構築に挑戦する企業を支援する国の事業再構築補助金ですが、3月24日申請締め切りで第9回の募集が開始されています。また、令和5年度も継続することが決定しました（令和4年度第2次補正予算）。

しかし、第2次補正では大幅な変更点があります。今回はそれらの変更点から注意すべき点についてお伝えします。

【第9回公募の実施予定について】

公募開始：1月16日(月) ※第8回公募で申請している場合、
 応募締切：3月24日(金) 第9回公募には申請できません。

【令和4年度第2次補正の変更点（3月下旬公募開始予定）】

(1)通常枠の変更

名称	現 状	新
補 助 率	通常枠	成長枠
補助上限額	中小2/3 中堅1/2 2,000万円 4,000万円 6,000万円 8,000万円	中小1/2 中堅1/3 2,000万円 4,000万円 5,000万円 7,000万円
そ の 他	売上高減少要件あり	売上高減少要件撤廃 取り組む事業の市場規模が10%以上拡大する 業種・業態(事務局で指定)

(2)新設枠の創設

- ①大幅賃上げ・規模拡大へのインセンティブ
- ②産業構造転換枠
- ③サプライチェーン強靱化枠

総合相談コーディネーター

私がお相談にお答えします！



北島 宏樹
 (合同会社システム
 なんでもサポート CEO)
 中小企業診断士

出勤日
 金曜日

相談無料
 秘密厳守

得意分野

補助金活用、IT活用、
 創業支援やインボイス制度など

オンライン(ZOOM)相談可



事業再構築補助金は建築物への補助や事前着手が認められる、数少ない補助金です。今回大きく変更されたポイントもありますので、申請にお悩みの方は、ぜひ私にご相談ください。

ソフトウェア開発技術者の資格も持っていますので、IT活用に関する相談もお任せください。また、インボイス制度の対応準備に関するご相談もどうぞ!!

まずは「総合相談窓口」までお気軽にご相談ください！

嶺北 《事前予約制》

TEL 0776-67-7421

相談日時:毎週月曜日～金曜日 9:00～17:00

相談場所:福井県産業情報センター 3F
 総合相談窓口
 (坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16)

※コーディネーターの当番日は右記の総合相談窓口HPからご確認いただけます。事前予約の方優先の対応となりますのでご予約をお勧めします。

嶺南 《事前予約制》

TEL 0770-22-0031

相談日時:毎週火曜日・水曜日・金曜日
 9:00～17:00

相談場所:アクアトム2F 嶺南サテライトオフィス
 (敦賀市神楽町2-2-4)

※水曜日・金曜日:前野コーディネーター、火曜日:よろず支援拠点のコーディネーターが相談対応しております。ご予約がない場合は、企業訪問等で不在している場合がありますので面談希望の場合は事前予約をお願いします。

総合相談窓口
 ホームページ



相談予約は
 こちらから!



よろず支援拠点 経営Q&A

人が関わる
 業務の現場改善編



疑問の概要

当社は大手メーカーの下請けで部品加工を行っている。機械化は進んでいるが、完全な自動化ではなく、各工程に作業者が関わっている。生産性を高めて収益確保につなげる手法はないだろうか？

生産性の考え方

生産性とは基本的には労働時間あたりの産出(出来高、加工高、売上など)として定義されます。多くの場合、産出に関してはデータが取られていると思いますが、労働時間の方は単純な勤怠データしか把握していないケースが圧倒的に多いです。時間分析をきちんと行くと、加工作業や機械を稼働させて実際に売上や出来高につながる業務をしている時間が何時間あるのかが明確になります。時間分析を行う際の基本的な分類を下で示します。(図1)

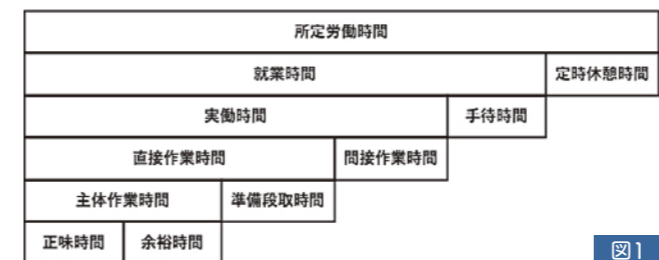


図1

主体作業時間は売上が上がる業務や作業を実施している時間、準備段取時間は主体作業を行う前後で実施する段取や準備作業をしている時間、間接作業時間は打合せや会議など、直接的な作業以外で必要と思われる時間を指します。

極論で言うと、これらに該当しない時間は、経済的価値を産まない作業をしている無駄な時間ということになります。このような観点で各作業者の稼働時間を把握してみると、生産性の向上を阻害している業務にどれだけの時間を費やしているのかが明確になります。

作業の仕方が標準化されているか

人が行う作業は、人任せにすると各自がやりやすいように作業します。当然、やり方はバラバラです。合理的な動きも、明らかに不合理な動きもあります。全く同じ作業で人によって作業時間が異なるのは、個人の能力差だけではなく、作業標準がないからバラツキが出ると考えるべきです。誰でも合理的に作業できる手順を標準作業として設定し、きちんと教育しておくことがポイントですが、設計されていないケースが多いのが現実です。

また、作業を標準化する過程で、作業上で発生する「ムダ」が浮き彫りになります。これを排除していただいても短い時間で無理なく作業ができるようになります。

作業改善の手法が理解されているか

作業の問題点を分析し、改善する手法の一つとして「インダストリアル・エンジニアリング(Industrial Engineering)」

があります。略して「IE」と言われます。

IE技法としてはいくつかの領域がありますが、現場で実践しやすいのは「方法研究」と呼ばれる領域で、中でも工程分析は作業の効率化ポイントを見つけ出すことに繋がります。

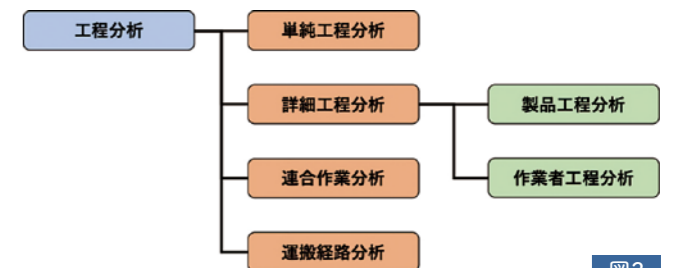


図2

工程分析は上の図2のように4つの分析から構成されます。単純工程分析と詳細工程分析の違いは、作業と検査に絞り込むか、移動・運搬、手待ち・停滞、保管・貯蔵なども対象に加えるかにあります。これらをしっかりと分析すると、工程の組み方や流れの中に潜んでいる問題点が浮き彫りになり、改善が進めやすくなります。

連合作業分析は、単数あるいは複数の作業員および機械の組み合わせにおいて、時間的な面からより効率の良い方法を見つける分析です。

運搬経路分析は、モノやヒトの移動経路を見る分析です。運搬は付加価値を産まないのがムダである、というところが基本となる考え方です。

このようなムダを見つけて排除するということが作業改善の基本ですが、IEの観点では一般的には7つのムダがあると言われています。

- (1)作りすぎのムダ
- (2)手待ちのムダ
- (3)運搬のムダ
- (4)加工そのもののムダ
- (5)在庫のムダ
- (6)不良を作るムダ
- (7)動作のムダ

このような観点からムダをあぶり出し、排除していくことで生産性を高めていくことができます。

IEそのものは70年から100年前にできた手法ですが、現代でも活用する価値があります。また、製造現場だけでなく、事務作業でも活用できる手法です。有効に活用することで現場改善につながるだけでなく、改善することが当たり前の組織を作ることに繋がります。

お申し込み・お問い合わせ先

福井県よろず支援拠点
 TEL:0776-67-7402 E-mail:yorozu@fisc.jp



第8回 福井ベンチャーピッチ開催報告 前編

「福井ベンチャーピッチ」とは、成長意欲の高いベンチャー企業に対して、VC、金融機関等の前でセールスプレゼン（ピッチ）する機会を設け、登壇企業の資金調達や販路拡大、ビジネスマッチングを促進し、全国への足がかりをつくる機会を提供するイベントです。

開催日時 ●2022年11月17日(木)
参加者数 ●324名 (会場参加者106名・オンライン参加者218名)
主催 ●公益財団法人 ふくい産業支援センター

ふくい産業支援センターでは、2022年11月17日に、第8回「福井ベンチャーピッチ」を開催いたしました。本イベントは2部構成で、第1部ではピッチ登壇経験者である、株式会社ドラフト 代表取締役CEO 伊藤佑樹氏、ファーストトレード株式会社 代表取締役社長 三上良平氏、チャンスメーカー株式会社 代表取締役CEO 平林満氏 からそれぞれ5分間の事業プレゼンをいただいたのち、「ピッチ登壇を契機に飛躍する3人の社長に聞く」と題してディスカッションいただきました。コーディネーターは、株式会社アイピーアライアンス 代表取締役社長 木嶋 豊氏に務めていただきました。第2部では、福井県の中小ベンチャー企業5社によるビジネスプレゼンテーション、ベンチャーピッチを行いました。

本稿では、福井ベンチャーピッチに登壇された5社の感想を、前編・後編に分けてお届けします。

「人手不足をキッカケに地域のファン(関係人口)創りを～福井県内のおてつたび先拡大を目指す～」

株式会社おてつたび
代表取締役 永岡 里菜氏(30代)

発表概要：短期的・季節的な人手不足で困る一次産業従事者や観光業者と、地域に興味がある若者を「旅」を通じてマッチングするwebサービスを展開。福井県に多数の若者が訪れる土台を作るべく、本事業の受け入れ先拡大を目指している。

会社設立：2018年7月
期待事項：資金調達、福井県内での事業者開拓、業務提携、大学等の教育機関のご紹介

貴重な機会をいただきありがとうございます。メンターの横井社長(ユニフォームネクスト株式会社)が、「選考会では登壇者の選考が白熱した」とお話をされていましたが、そんな中で、私のような県外のベンチャーが登壇の機会をいただけたのは、それだけ皆さんに期待していただけたからこそと受け止めています。



登壇決定から本番までの2か月間のメンタリング期間は私にとって大変貴重な時間でした。プレゼン資料のブラッシュアップだけでなく、ビジネスモデルについても中長期的視点から具体的にアドバイスくださり、本当に感謝しています。

トップバッターの登壇はとても緊張しましたが、思いの丈はすべて伝えることができました。今回の福井ベンチャーピッチ登壇をきっかけに、福井県を含む北陸地域での受け入れ先をどんどん拡大していけるよう、これからがんばります。



「まだ誰もやっていない新規市場を作る『リペア済ブランド品の新規流通網構築』」

フェニックス・コミュニケーション株式会社
代表取締役 柴原 義也氏(50代)

発表概要：キズや色あせ、変色といった不具合の生じたブランド品のバッグやお財布を仕入れ、見栄えが良くなるように修復し、ネット販売を行うビジネスを展開。ブランドリペア品に特化した新規市場開拓を目指している。

会社設立：2022年7月
期待事項：出資、販路拡大、業務提携

福井ベンチャーピッチへのエントリーは、ピッチ登壇経験者である親会社(フェニックス株式会社)の齋藤社長から、「ベンチャーピッチの事前メンタリングはとてつもない勉強になる。今後のビジョンを明確にするためにも、挑戦してみてください」と勧められたことがきっかけでした。

登壇決定後、2か月間のメンタリング期間を経て、本番のプレゼン発表を終えた今の率直な感想は、「2か月かかって、この発表か」という思いです。おそらく、事務局の皆さんの協力がなければ、自分の伝えたいことの半分も伝えられないまま終わっていたと思います。メンタリング期間中にいろいろなアドバイスをいただき、「ああ、そうか」と自分自身で気が付いていなかったところをたくさん気づけたことが一番大きかったです。皆さんには本当に感謝しかありません。ありがとうございました。



今回の「福井ベンチャーピッチ」は2023年秋頃に開催する予定です。登壇に興味のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。なお、イベントの詳細はこちらのブログ記事でもご覧いただけます。

https://www.s-project.biz/staff-blog/fvp_8

執筆者：新産業支援部 ベンチャー・EビジネスG 岡田留理



DXデビューしませんか？

～県内企業のDX事例の紹介～

ふくいDXオープンラボは、DX技術の導入支援や人材育成を支援しています。
ここでは県内企業のDX導入事例を紹介します。

警備業の課題からVR研修コンテンツの開発へ

2016(平成28)年、清掃・警備の2事業でスタートした同社は現在、3つ目の事業としてVR関連商品の開発・販売を進めています。

警備業のDXを掲げ、VR事業を発足させたのは2021年12月。警備業は法律による規定の研修が定められ、現場でも法律遵守の業務が求められています。業務の慣れからしばしば、いわゆる「ヒヤリハット」を起こすことがあったのだそうです。

事故の危険性を体感できる研修方法はないか—代表取締役の桶師康司氏が検討したのがVRによる研修教材の制作。VRで交通誘導をシミュレーションし、ヒヤリハットにつながる事例を未然に防ぐことを考えたのです。



教材の制作。VRで交通誘導をシミュレーションし、ヒヤリハットにつながる事例を未然に防ぐことを考えたのです。

VR研修に手ごたえ

これまで清掃業務の管理アプリの企画・運用は行っていましたが、VRによるシステム開発は初めて。同社と外部パートナー企業計3社からなる開発体制を組み、関連法規や教本などを確認しながら、約半年かけて開発を進めました。

担当した吉村氏によると、専用アプリと市販のVRゴーグルを組み合わせる同システムの導入は効



誘導のイメージが掴めるので、未経験者でも安心できる。

果てきめんでした。「交通警備の経験がない人に、映像教材や教本だけで現場の空気感を伝えることは難しい。VRだと現場の危険性を体感しながら研修できます」。Googleで見ている画像を外部ディスプレイで共有できる機能もあり、研修者の理解度を指導者が把握できるのも特長です。

教育分野におけるVR市場に期待

VR研修コンテンツの完成後、社外向けにもパッケージ商品として展開、同年末までに全国約50社に納品しました。納品先からは、「研修を複数人で行うことでコミュニケーションが活発になる」「警備のチームワークが良くなった」「求人の際、同業他社との差別化材料になる」などの評判が寄せられています。

吉村氏は教育分野におけるVR市場の広がり期待を寄せます。「映像教材の研修は受動的になりがちで、ロールプレイング形式では時間や予算、講師の手配など制約が多い。VRはエンタメ分野に話題が集中しがちですが、実は教育分野での相性がとてもよいのではと思います」。

同社はサービス業や製造業などへの進出も視野に、助成金を活用した新たなコンテンツの開発も検討中。VRやDXなどの展示会にも積極的に出展の予定です。

NABULU
交通誘導VR



同社が販売しているVRソフトブランド「NABULU」 ▲プロモーションビデオはサービス業・製造業向けも制作検討中。 [こちら!](#)

会社概要

株式会社アルハート

[コーティング施工管理業、清掃業、警備業、VR開発・販売]

福井市問屋町3丁目1101

代表者：代表取締役 桶師 康司氏

TEL 0776-63-5763 FAX 0776-63-5769 URL <https://ar-heart.com/>



お問い合わせ先

(公財) ふくい産業支援センター DX推進チーム
TEL:0776-67-7416 FAX:0776-67-7439 E-mail:dx-t@fisc.jp

上海事務所 レポート

上海
Shanghai

中国の都市封鎖と 中国国際輸入博覧会

福井県上海事務所 白崎 和弥
(2023年1月10日)

中国の都市封鎖

日本では、ウィズコロナに舵を切り、徐々に海外への渡航や旅行などが盛んになってきていると思います。一方で、中国においては、12月までゼロコロナ政策が続き、徹底したコロナの封じ込めを実施しておりました。

日本でも、大きく報道されたとはいえませんが、上海では2022年3月末から5月末まで都市封鎖が行われ、封鎖されていた地域、アパートやホテルにもよるかと思いますが、私の場合は、約3週間はホテルの部屋から出ることはできませんでした。その後、3日間はごく限られたエリアであれば外出することができるようになりましたが、すぐにホテルの敷地から外に出ることはできなくなりました。

都市封鎖が終わった後は、PCR検査が常態化しました。都市封鎖が終わった6月以降は、基本的には72時間以内のPCR陰性証明がない

と、商業施設の利用はできず、オフィスビルに入ることもできませんでした。12月上旬以降、基本的には陰性証明なしでも各種施設の利用が可能となるなど、コロナ施策が緩和されました。しかしながら、急激なコロナ施策の緩和により、いたるところで感染者が多発しております。

中国への渡航

私は2022年の2月に中国へ渡航しました。その時点では、「14日間の隔離+7日間の健康観察」が必要でした。2023年1月8日から中国入国時の隔離は撤廃され、渡航前のPCR検査も2回から1回になりました。日本⇄中国便の飛行機も徐々に増便されております。

しかしながら、航空券が高騰しており、加えて中国のビザ免除措置は引き続き停止されているため、入国にはビザを取得する必要があります。高いハードルがある状況です。
※2023年1月10日時点では、

日本から中国へ渡航するビザの発給手続きが停止されています。中国に渡航の際は、在日本中国大使館等で最新の情報を確認してください。

福井県上海事務所のサポートメニュー

福井県上海事務所では、福井県内企業向けに各種サポートメニューを準備しております。まずは、①無料法律相談です。上海事務所では、現地の法律事務所と契約しており、同一年度内に1企業あたり2時間まで、無料で法律相談を行うことができます。また、オンラインでの相談も可能です。

次に、②企業信用調査サービスがあります。これは、中国の企業と新規取引される場合など、同年度内に1企業あたり2社分まで無料で利用可能です。調査対象の企業によっては、時間がかかる可能性もありますので、早めの相談をお願いしております。また、中国本土、香港、台

また、福井県上海事務所が独自に出展する展示会等の機会も活用し、商品の知名度向上を図っていきたいと考えております。

第5回CIEEには127か国・地域から約2,800社の企業が参加しました。厳しいコロナ対策で入場者を制限したため、累計来場者数は46万1,000人と、前年の実績(約48万人)と比べると微減でしたが、成約額は735億2,000万米ドル(約10兆7,600億円)と、前年よりも増えました。

中国国際輸入博覧会(CIEE)

上海事務所では、中国国際輸入博覧会(以下、「CIEE」)への、県内企業の出展に支援を行いました。CIEEは2017年に中国の習近平国家主席が「一帯一路国際協力フォーラム」において開催を発表したもので、中国政府商務部および上海市人民政府が主催しています。上海市の国家会展中心において2018年に第1回が開催され、以降、毎年秋に開催されています。

上海事務所では、出展する県内企業が新型コロナウイルスの影響により中国に入学できないことを想定し、消費館に1ブースを確保するとともに説明員等を配置し、参加する県内企業やその代理店の社員が直接ブースに立たずとも商談ができるようサポートしました。その結果、県内からは、包装資材の企業2社が参加しました。

2021年の第4回CIEE

説明員を配置、中国語による商品説明を行った結果、ブースには多くの方が来場され、名刺やWeChat(日本のLINEのようなもの)の連絡先を入手することができました。CIEE終了後も、説明員委託会社によるフィードバックを行い、CIEEで入手した連絡先以外の手段による商品紹介も行ってまいります。

福井県上海事務所では、CIEE以外の展示会にも出展しております。ご興味がある場合には、まずは福井県上海事務所までお問い合わせください。



福井県上海事務所

検索

F-ACT読者アンケートの記入についてのお願い

今回、当情報誌の内容につきまして、アンケートを実施することいたしました。お忙しいところ申し訳ございませんが、下記の方法にてアンケートにご回答いただきますようお願い申し上げます。
※回答時間は2～3分です。

1.ご回答方法

①同封のアンケート用紙によるご回答

→郵送または、FAXでご返送ください
(同封の返信用封筒をご利用ください)

FAX番号 0776-67-7419 まで

②Webでのご回答

右記のQRコードからご回答をお願いします。



(URL <https://forms.gle/xLWnB7iBV5NGm7MVA>)

2.ご回答期限 令和5年2月24日(金)

※集計の都合上、期限内のご回答にご協力をお願いいたします。

お問い合わせ

(公財)ふくい産業支援センター 総務部 担当:上野、坂井
〒910-0296 坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16 TEL 0776-67-7414

リカレント教育総合支援センター

『リカレント・学び直しオンライン相談Week』のお知らせ

令和5年2月12日(日)～18日(土) 各日9:00～17:00

全国通信制大学・県内大学との入学相談(オンライン)やキャリアアップ相談にぜひこの機会をご活用下さい

リカレント教育総合支援センターは、
良好なオンライン環境の提供などで、
皆様と教育機関との相談をサポートいたします。

こんなお悩みをお持ちの方は、
一度、当センターにお問い合わせください

- 静かで落ち着いて相談できるオンライン環境がなくて困っている
- リカレントに興味はあるが、一旦誰かに相談してから始めたい
- まずはどんな学校があるのか知りたい

★期間中は、中産大テレワークルームを開放します 要予約

★経験豊富なキャリアコンサルタントが相談に応じます 要予約

★各大学の情報提供やスケジュール調整をお手伝いします

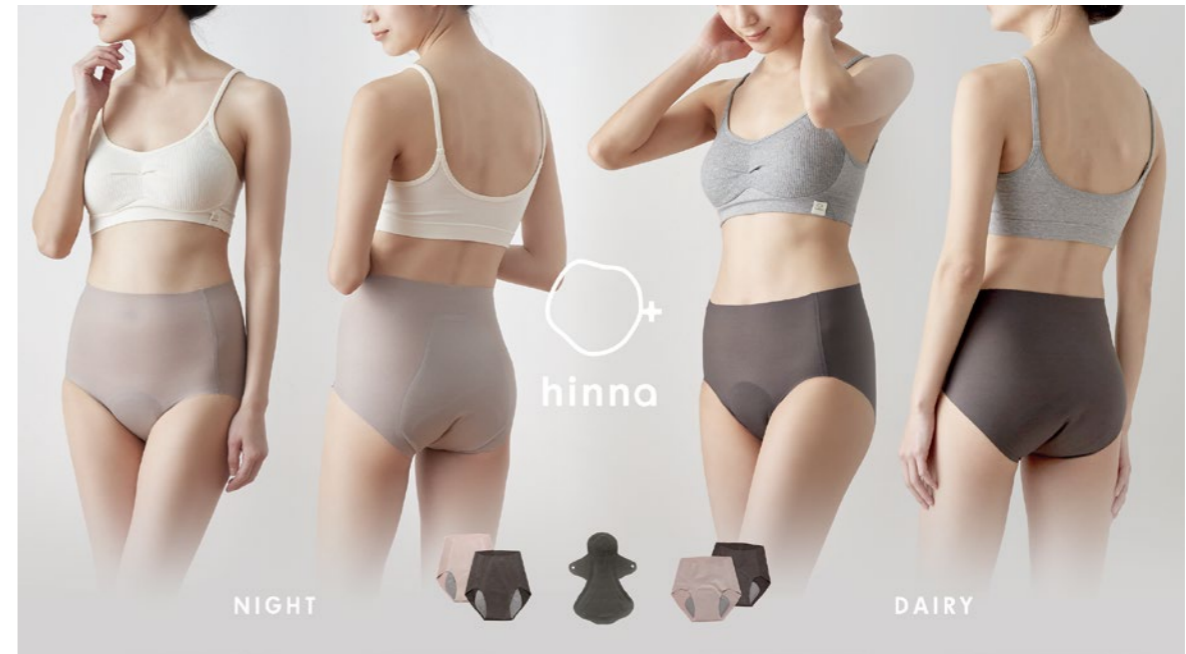


リカレント総合支援センター
(中小企業産業大学校内)

(公財)ふくい産業支援センター 人材育成部
〒918-8135 福井市下六条町16-15
TEL 0776-41-3775 mail manabi@fisc.jp



GOOD DESIGN



2022年度グッドデザイン賞 BEST100

女性用インナー [hinna 吸水型サニタリーショーツ、吸水型ナプキン] /株式会社エル・ローズ

近年女性の健康問題をテクノロジーで解決する「フェムテック」が認知されるようになってきた中、月経時に使用する生理用品として繰り返し洗って使用できる「吸水ショーツ」という選択が広がっています。

「吸水ショーツ」と聞いてイメージする分厚さ、仰々しさ、手間や使い心地の心配。そのひとつひとつを丁寧に解決して生まれたのが、『hinna』吸水型サニタリーショーツ&ナプキンです。

すみずみまでフラットに、余計な縫い目も食い込みもない「快適さと吸水力」の両方を実現しています。

まず、ショーツ本体と吸水部分を限りなくミニマムに。デイリーは20-30ml、ナイトは30-40mlと十分にカバーできる保水力を保ちながら、「吸水ショーツを履いていることを忘れるような快適さ」を実現。直接肌に触れる製品のノウハウ・技術を生かしたものづくりメーカー、コスモ株式会社との共同開発にて、最大6層の生地をフラットに接着することに成功。縫製の無いデザインは、厚ぼったさを感じずゴワゴワしません。

さらに、吸水部分の素材や構造においても、吸収スピードが速くひんやり感も感じにくい特殊な素材を使用。洗濯後も半日ほどで乾く速乾性ある構造で、使い勝手の良さが特徴です。

女性のカラダとこころのゆらぎを丁寧にひも解き、毎日無理なく使えるデザインとなっています。

【審査委員の評価】

担当審査委員 | 鈴木元 本田敬 服部 滋樹 廣川 玉枝

女性の生理用品のあり方を大きく革新できる、高いクオリティのものづくりが評価された。ナプキンとして、吸水部分の素材や構造も十分に検討されており、薄型で快適であり、履いた時のフォルムも美しく、カラーデザインやシームレスの縫製方法など含め、審美性も同時に実現されている。なおかつ、洗濯時の汚れ落ちの良さや、洗濯のしやすさで機能面も優れており、女性の生理ライフを熟考して作られ、従来の使い捨てナプキンの削減にもつながることから環境にも大いに貢献できるデザインである。



令和4年分 申告所得税、贈与税、個人事業者の消費税の確定申告と納税は正しくお早めに!

●申告書の作成・送信は自宅から! 国税庁ホームページ「確定申告書等作成コーナー」が便利です!

STEP1 国税庁ホームページへアクセス ~スマホやパソコンで24時間いつでも申告書等が作成できます~

STEP2 申告書を作成 ~画面の案内に従って金額などを入力するだけで簡単に申告書が作成できます~

STEP3 申告書を提出 ~国税庁ホームページからe-Taxで送信又は印刷して郵送等で提出できます~

●相談はチャットボットや電話でもできます

申告書の作成でお困りのときは、「税務相談チャットボット」にご相談ください。ご質問を入力いただければ、AIを活用した「税務職員ふたば」がお答えします。お電話での相談は最寄りの税務署にお電話いただき、自動音声案内に従い「0」を選択、「確定申告コールセンター」にてご質問にお答えします。

●税務署での申告相談受付期間

税務署での申告相談の受付期間は、令和5年2月16日(休)から3月15日(水)です。

受付時間: 午前9時~午後4時 月曜日~金曜日(祝日を除く)

確定申告会場内の混雑緩和のため、会場への入場の際には、「入場整理券」が必要となります。入場整理券は会場当日配付するほか、国税庁のLINE公式アカウントでのオンライン事前発行も行っておりますので、是非ご利用ください。

●納期限と振替納税のご案内

《所得税》申告と納税 3月15日(水) 《個人消費税》申告と納税 3月31日(金)

振替日 4月24日(月) 振替日 4月27日(木)

●国税のキャッシュレス納付のご案内

国税庁では、各種の「キャッシュレス納付」手続きを用意していますので、是非ご利用ください。

●問合せ 最寄りの税務署

詳しくはこちらから▶



スマホでの申告はこちらから!



税務職員ふたば



国税庁 LINE公式アカウント



毎月勤労統計調査

まいつききんろうとうけいちょうさ

雇用

労働時間

賃金

どんな調査なの？

賃金や労働時間、労働者数の変動を明らかにすることを目的に、厚生労働省が都道府県を通して実施しています。

どの事業所を調査するの？

産業、事業所規模別に無作為に抽出された事業所を対象に一定期間実施します。福井県では現在約550事業所が対象となっています。

何に利用されているの？

・経済指標の一つとして景気判断や都道府県の各種政策決定
・雇用保険・労災保険の給付額改訂など

調査対象に選ばれた際にはご協力をお願いします

インターネットでも
回答できます

福井県の調査結果
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/tokei-jouhou/maikin/maikin.html>

調査対象事業所の皆さまへ
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/tokei-jouhou/maikin/maikin-subject.html>

福井県地域戦略部統計調査課 ☎ 0776-20-0272

皆様の声を
お聞かせください!!

「〇〇が面白かった、ためになった」、
「△△をもう少し□□にしたらどうか」、
「●●のテーマについて紹介して欲しい」、
「▲▲会社がやっている■について取り上げて欲しい」など、本誌を読んだ感想や、要望など、皆様のご意見をお待ちしております。

編集後記

こんにちは！最後まで読んでいただきありがとうございます。

今号は「現場改善の挑戦を追究」と題し、現場改善を積極的に進めている企業の方々にお話を伺って参りました。お話を伺っていく中で、それぞれ製造しているモノも現場の中での課題も様々ですが、改善の手法や考え方には共通する部分もあるのだと感じました。そうした手法や考え方を学ぶことができる「ものづくり改善インストラクターズスクール」は、来年度も開講予定です。ぜひ受講をご検討いただけますと幸いです。

さて、新年を迎えて1ヵ月が経過しようとしています。皆様いかがお過ごしでしょうか。今年も良い1年となるよう日々を過ごしていきたいですね。また、今号には本誌のアンケートも同封しております。特集の企画等に役立てておりますので、ぜひ皆様のご意見をお寄せください。

今後ともご愛読のほど、よろしくお願いたします。

本誌「F-ACT(ファクト)」を活用して会社をPRしよう!

企業情報メール便

販路開拓のチャンス!
本誌にチラシを同封できます

本誌では、企業情報メール便(チラシ同封サービス)を毎月実施いたします。配送先は、県内事業所約1,700社です。この機会に、貴社の商品・サービスを幅広く紹介しませんか?

● 次回実施号

VOL.58 3月27日発行予定

チラシ提出締切日: 3月20日(月)

チラシ1,700部をご提出(持参または配送)願います。

	同封するチラシ・パンフレットのサイズ	料金(税込)
料 金	A 4判以下のチラシ	6,600円
	A 4判超～A 3判以下のチラシ (二つ折にしてA 4判以下のサイズにすること)	9,900円
	A 4判以下のパンフレット (10ページ程度まで)	13,200円

※チラシ・パンフレット1種類当たり1回分の同封料金です。

ご利用を検討の方は、事前に、電話または電子メールにてご連絡ください。1号につき約10社まで受け付けます。なお、申込状況および掲載内容によりお断りする場合があります。

お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター 総務部 F-ACT担当

TEL:0776-67-7414 e-mail:kouhou-g@fisc.jp

本誌に関するお問い合わせは

fisc 公益財団法人 ふくい産業支援センター <https://www.fisc.jp/>

総務部 TEL 0776-67-7414/FAX 0776-67-7419/E-mail: kouhou-g@fisc.jp
〒910-0296 福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16 (福井県産業情報センタービル内)



お料理やまとも 新幹線開業に向けて 神楽町の和食店が店内をリニューアル

2008年、神楽1丁目商店街の一角で営業を開始した「お料理やまとも」。同店では10年以上京都で修行した料理人が、敦賀の食材を中心に素材の旨味を存分に引き出した料理を提供します。落ち着いた雰囲気の内にはカウンター席と個室のテーブル席が設けられており、お昼は丼ぶりや定食、夜は懐石料理を楽しむことができます。またカウンター席では、料理人の技を見ながら食事ができるのも同店の特長となっています。

同店は一昨年、北陸新幹線開業に向けて店舗を改装。厨房機器を入れ替えて効率的に料理を提供できる環境を整えたほか、カウンターの補修、店内照明の取り替えを行うなど、より良い雰囲気の中で食事ができるように店内を仕上げました。「新幹線開業で観光客の増加が見込まれる中、県外のお客様を増やしていくことは店舗を続けていく上で必須だと考えています。敦賀に来られるお客様を受け入れる態勢が整えられるよう、これからも努力していきたいですね」

敦賀の名所のひとつである氣比神宮の前に位置する同店。氣比神宮の愛称「けいさん」にちなんだ「鶏さん丼」(ランチメニュー)は、同店の人気メニューのひとつです。敦賀に訪れた際には、お料理やまともで食事を楽しんでみてはいかがでしょうか。

活用事業: 令和3年度 おもてなし産業魅力向上支援事業(店舗改装・設備導入)



ご来店
お待ちしております!

お料理やまとも
住 所: 敦賀市神楽町1丁目1-6
TEL: 0770-25-8716
営業時間: 11:30～13:30(ラストオーダー)
17:30～21:00(ラストオーダー)
定休日: 水曜日
URL: <https://yamatomo-kagura.com/>

話題の 新スポット巡礼

県内企業が打ち出した気になる新スポットに「F-ACT」編集担当が訪問。その空間に込められたコンセプトやこだわり、企業の想いをお届けします。

No.29



中小企業診断士は、
企業という国の参謀なり。

中小企業診断士は 福井県内各エリアで企業を 支援しています。

「中小企業診断士」は、中小企業の経営課題を達成するための診断・助言を行う専門家です。経済産業大臣が登録する、わが国で唯一の経営コンサルタントの国家資格を保持します。幅広い知識や能力を活用し、企業と行政、企業と金融機関を結ぶパイプ役となりながら、公共・民間部門問わず様々な問題に取り組んでいます。

主な相談内容

- 創業・起業支援
- 事業再生・経営改善計画策定支援
- 講師派遣事業
- 福祉・農業・観光に関する研究会
- 各種補助金計画書作成
- 他士業との連携による事業開拓
- 創業を含む各種セミナー
- 診断士を目指す方対象の養成塾
- 各種無料相談会

ご相談方法

お近くの金融機関等にて「診断士に相談したい」と窓口でお伝えください。

福井銀行 / 福邦銀行 / 福井信用金庫 / 越前信用金庫 / 敦賀信用金庫 / 小浜信用金庫 /
福井県内各商工会議所 (福井・敦賀・武生・大野・勝山・小浜・鯖江) / ふくい産業支援センター /
福井県信用保証協会 / 福井県商工会連合会 / 福井県内各商工会

一般社団法人

福井県中小企業診断士協会



<http://www.sindan-fukui.jp/>

〒910-0804 福井県福井市高木中央3-1001 2F

TEL.0776-53-8539 FAX.0776-97-8773 info@sindan-fukui.jp

生産性向上についても
ぜひご相談ください!